

道しるべ地蔵

1806 年頃に建立されたこの地蔵は、昔の交易路沿いにあったことから、旅人の道しるべとして重宝されてきました。右に向かえば、何日か歩いているうちに東京に到着します。左に向かうと山に到着します。刻印には「右は江戸」（東京はかつて江戸と呼ばれていた）、「左は山道」（Yamamichi とは「山の道」の意味）と彫られています。

地蔵と旅人との間には、強い歴史的なつながりがあります。これらの石の守神は、多くの場合、ウォーキングやハイキングのルートに沿って方向を示す目印や経路として機能します。交差点や墓地、お寺の境内などで、並んで立っていたり、木製や石造りのシェルターに座っていたりします。赤いビブスやニット帽が子供らしい一面を見せ、実は子供の守り神としての精神的な意味も込められています。また、通行人に幸運をもたらすとも言われています。

19 世紀初頭に長岡を訪れた多くの著名な旅行者は、旅の途中で道しるべ地蔵のことを口にしていきます。今もなお、摂田屋地区を行き交う人々に幸福を与え、道しるべとなっています。

地蔵の保存に協力し、一年の間に会ったすべての人の無事を感謝するために、毎年小さなお祭りが開催されています。1890 年から毎年 8 月に開催されていますが、市内の他の場所でのイベントと関係なく、小規模な場合もあります。祭りと地蔵は、長岡の人々が逆境にあっても、勇気と粘り強さと決意を持って生きてきた姿を表しています。